vinetur

スウェーデンのワイン輸入額、2025年に5.18％増の8億7478万ユーロ

輸入量は8.53％増加。Systembolagetの小売独占が市場を形づくるなか、安定した需要が浮き彫りに

2026年11月21日（土）



ICEX España Exportación e Inversionesの新たな市場調査によると、スウェーデンのワイン輸入は2025年、金額・数量ともに増加した。消費者へのアクセスが国営小売独占企業Systembolagetの影響を強く受ける、輸入依存型市場としての同国の位置づけが改めて示された。

ICEXによると、スウェーデンのワイン輸入額は2025年に8億7478万ユーロとなり、前年から5.18％増加した。輸入量は2億1793万リットルに達し、8.53％増となった。国内生産よりも海外からの供給に大きく依存する市場で、需要が引き続き堅調であることを示す数字だ。

調査によると、スウェーデンのワイン輸入額に占めるスペインの割合は12.2％で、北欧でも特に制

度化されたアルコール市場の一つにおいて、スペインの生産者が確かな地位を築いている。ICEXはまた、スウェーデンの輸入に占めるスパークリングワインの比重が高まっていると指摘した。この変化は、さまざまな価格帯やカテゴリーで競争する輸出業者の商品戦略に影響する可能性がある。

ワインの販売方法を考えるうえで、スウェーデン市場の構造は依然として重要だ。国営チェーンのSystembolagetは、一定の低アルコール度数を超える酒類の小売を独占しており、商品採用や店頭での視認性、消費者の購入機会に大きな影響力を持つ。つまり、輸入が増えても、市場参入が容易になるとは限らない。供給業者は、厳格に規制された制度のもとで、公募入札や包装要件、価格への期待に応える必要がある。

ワイン生産者や輸入業者をはじめとする飲料企業にとって、今回の数字は、原産地やブランドだけでなく、商品形態や価格、販売経路も商業上の判断を大きく左右する市場の実情を把握する手がかりとなる。輸入飲料が店頭の大半を占めるスウェーデンでは、カテゴリー構成や購買傾向の小さな変化が、輸出業者によるボトルワイン、バッグ・イン・ボックス、スパークリング商品の位置づけに影響しうる。

輸入量の伸びが金額の伸びを上回ったことから、2025年の市場は複数の面で拡大したことがうかがえる。ただし、ICEXの概要には平均価格や全商品カテゴリーの詳細な内訳は示されていない。それでも、この調査の概況からは、市場がなお成長を続ける一方、品ぞろえや流通に大きな権限を持つ中央集権的な買い手が定める条件のもとで、供給業者が事業を展開していることが読み取れる。

この需給関係は、スペインがシェアの維持・拡大を目指すうえで重要だ。輸入額の12.2%を占めるスペインワインは確かな足場を築いているものの、同国で支配的な地位にあるわけではない。他の輸出国との競争は依然として激しく、消費者の嗜好は、全面的に開かれた小売市場ではなく、公式の調達経路を通じて変化する可能性がある。

今回の報告書は、飲料業界の輸出業者が、明確なルールと安定した需要を備えた市場を探るなかで発表された。スウェーデンはその条件に合致するものの、価格や包装、カテゴリー選定での失敗が許されにくい市場構造を持つ。ワイン、ビール、蒸留酒や関連飲料の販路拡大を目指す企業にとって、スウェーデン市場には引き続き機会がある。ただし、それをつかめるのは主に、Systembolagetを中心とする輸入主導型システムの規律に対応できる企業だ。